

令和2年3月2日

京口門だより NO. 77

3月3日は桃の節句。桃は古来邪気をはらう仙木とされ、桃の花を浮かべた酒を飲む慣習があったとされます。新型コロナウイルス感染症はいまだ収束のきざしがみえませんが、桃の節句にちなんで邪気ははやく去ってほしいものです。自分自身の感染予防だけでなく、集団での感染に注意をはらい、予防に協力すべきだと思います。

現代医学ではウイルスや細菌の感染症に対しては、まず原因となるウイルスや細菌自身の働きを止め、その増殖を防いで抗ウイルス作用や抗細菌作用を作りだします。インフルエンザ・ウイルスに対しても、結核菌に対しても有効に働き、病気の治癒に大きく役立っています。その結果結核を始めとする多くの細菌感染症を克服してきました。ウイルスに対しては一部の感染症には有効ですが、まだ治すことのできないウイルス感染症が多くあります。今回の新型コロナウイルスも有効な薬は見つかっていません。そのようなウイルスには、人の免疫力によって感染症を防ぐ血清ワクチン療法が用いられます。ワクチンはウイルスなどの病原体(抗原)に対する抗体を作りだし、人の免疫力によって感染症を防ごうというものです。有名な話は天然痘という病気を種痘という血清ワクチンを用いた治療法で完全に克服できたことです。いまの新型コロナウイルスでもワクチンを作ろうとしています。いまだ成功したという報告はありません。このようにウイルスや細菌などの感染症では、病原体を直接無力化する方法と人の免疫力によって病原体を克服する方法の二つがあります。

ひるがえって漢方医学の感染症に対する治療法は、現代医学のような病原体に直接作用して死滅させる方法はほとんどありません。むしろ人の免疫力を強化して、病原体に対処しようとしています。さまざまな科学的実験研究によって、漢方薬には人の免疫機能を活性化する働きがあることが明らかにされています。たとえば、感染症やガンの免疫系に重要な働きをもっているナチュラルキラー細胞を漢方薬の一部は活性化することが証明されています。免疫系だけでなく、人の内分泌系(ホルモン作用)にも影響して、感染症やガン治療に効果をあらわすと言われています。実際にインフルエンザ感染症にたいしても漢方薬は有効です。なにも抗ウイルス剤を用いなくても、早期に解熱し症状の改善をもたらします。しかし、病原体が非常に強力な場合は十分な効果が得られないこともあり、ほかの療法が必要となります。

